

新約聖書 ルカによる福音書 10章 38節—42節 (新共同訳)

³⁸一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。³⁹彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。⁴⁰マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」⁴¹主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。⁴²しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

説教「聞き入る」

本日の福音書には、マルタとマリアという2人の姉妹が登場します。姉妹であるマルタとマリアの家をイエスが訪れて話をするこの箇所は、ルカ福音書の時代の「家の教会」の状況を反映していると考えられます。教会の原点は、この「家の教会」にあるのでしょうか。

イエスは、弟子たちと共にエルサレムへの旅を続け、ある村に入っていきます。その時、マルタという女性がイエスを家に迎え入れました(ルカ 10:38)。当時のユダヤ社会では、女性が自らの意志で男性客を家に迎え入れることは考えられないことでした。そんな社会の中で、マルタはイエスに声をかけ、一行を家に招き入れたのです。

マルタにはマリアという姉妹がいて、おそらくマリアは妹だったと考えられます(ヨハネ 11章から推測)。マリアはイエスの足もとに座って、その話に聞き入っていました(ルカ 10:39)。足もとに座ってイエスの言葉に聞き入るとは、弟子としての姿でもあります。

当時、ユダヤ教の律法学者、すなわちラビと呼ばれる教師は、女性の弟子入りを認めませんでした。イエスの足もとに座り、イエスの話に聞き入るマリアの行動は、男のように振る舞うことであり、当時の社会常識の境界線を踏み越えることでした。

そのとき、マルタはいろいろなもてなしのためにせわしく立ち働いていました(ルカ 10:40)。「せわしく立ち働いていた」のもともとの意味は、「気を取られる」「専心している」です。そもそも、マルタがイエスを家に招き入れたのは、イエスの話を聞きたかったからでしょう。ですがマルタは、「せわしく立ち働く」ことに気を取られ、イエスの言葉を聞き逃しています。

「いろいろのもてなし」という表現から示されるように、マルタはあまりにも多くのことに忙殺されていました。神の国の福音を聞く大切な時でありながら、イエスをもてなそうとすることによって、マルタの心の中は、現世的な思い煩いでいっぱいになっていました。

そこでマルタはイエスに近寄り、「主よ」と呼びかけ、「わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか」とイエスに言います（ルカ 10:40）。マルタは、自分だけにもてなしをさせているマリアを間接的に非難し、イエスに、マリアも手伝うように言い聞かせて欲しいと訴えました。

そんなマルタにイエスは、「マルタ、マルタ」と彼女の名前を繰り返し呼んだあと、マルタの言葉に返答します（ルカ 10:41）。イエスがマルタの名前を繰り返し呼びかけたことには、マルタへのねぎらいと慈しみの気持ちが込められているように思います。しかし、そのあとに続くイエスの言葉は、マリアももてなしを手伝うべきだというマルタの要求を受け入れるものではありませんでした。

イエスはマルタに「あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している」と語りかけます（ルカ 10:41）。さらにイエスは「必要なことはただ一つだけである」と言います（ルカ 10:42）。

マルタは、必要なただ一つのこと集中するのではなく、多くのことを思い煩っていました。ここでのただ一つの「必要なこと」とは、マリアが選んだ「良い方」、すなわちイエスの言葉に聞き入ることでした（ルカ 10:42）。

イエスをもてなすことよりも、イエスの言葉に聞き入る方を重視するこの箇所は、イエスがもてなされるために来たのではないことを示しています。

この場面において、マルタ、マリヤ、弟子達の中での一番の奉仕者であり「仕える人」は、神の言葉を語るイエスなのだと思います。

イエスに向かって、妹のマルタにも手伝うように言って欲しいと訴えたマルタは、ハキハキとした意志の強い女性だったのだろうと思われれます。

マルタとマリアは、ヨハネ福音書にも登場します（ヨハネ 11章-12章）。ここでもマルタはイエスに、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに」（ヨハネ 11:21）と、イエスへの抗議ともとれる発言をしています。

このようにマルタは、自分の思いを包み隠さず率直にイエスに訴えますが、いつもイエスはそのことへの答えをくださいます。

結果的に、マリアだけではなく、マルタもイエスの言葉を聞いたのです。イエスがマルタに向けて語った「必要なことはただ一つだけである」という福音は、マルタにとって、また私たちにとって、様々な思い煩いから解放される福音ではないでしょうか（ルカ 10:42）。

「マリアは良い方を選んだ」とイエスは言います（ルカ 10:42）。「良い方」とは、神から遣わされたイエス・キリストの言葉に耳を傾けることです。

マリアは、何かをしながら立ったままイエスの話を聞いていたのではなく、イ

エスの足もとに座って、その話に聞き入っていました。マリアは、イエスが一般の客たちのように食事や宿を求めて来たのではなく、その言葉を通してご自分を与えるために来られたことが分かっていたのです。

私たちは、日々の生活でどうしても目の前の物事に追われ、あれこれと思い煩ってしまいます。頭の中を流れ続ける堂々巡りの思い煩いをしている時は、気持ちを切り替えて、マリアのように、一心に神の言葉を聞くことに集中してみてください。

また、マルタが、自分の中にあるあれこれの思い煩いを、取り繕うことなく主イエスに打ち明けたように、自分の迷いや苦しみを包み隠さず神に打ち明けてみてください。

本日の福音書は、イエスの「それを取り上げてはならない」という言葉で締めくくられます（ルカ 10:42）。

私たちは、人生の中で、様々なことが何も思い通りにいかないことや、あらゆる体調不良や病などによって、追い詰められ、希望を持たないどん底の気持ちになることがあるかもしれません。

ですが、どのような状況においても、私たちから「神の福音」が取り上げられることは決してないのです。

あなたの味わう苦しみや試練は、決して無駄にはなりません。

のちにそれらは、あなたのうちで、神の福音を深めてくれるでしょう。

私たちは、どのような試みの中にも、喜びの中にも、神の福音のうちに共に歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。私たちは、あなたの御子イエスの言葉を聞きたいと望んでいます。私たちの思い煩いや弱さをすべてご存じであるあなたに信頼して、日々歩いていくことができますように。御子 主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 創世記 18章 1節—10節 a（新共同訳）

¹主はマムレの櫨の木のでアブラハムに現れた。暑い真昼に、アブラハムは天幕の入り口に座っていた。²目を上げて見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。アブラハムはすぐに天幕の入り口から走り出て迎え、地にひれ伏して、³言った。「お客様、よろしければ、どうか、僕のもとを通り過ぎないでください。⁴水を少々持って来させますから、足を洗って、木陰でどうぞひと休みなさってください。⁵何か召し上がるものを調べますので、疲れをいやして

から、お出かけください。せっかく、僕の所の近くをお通りになったのですから。」その人たちは言った。「では、お言葉どおりにしましょう。」⁶ アブラハムは急いで天幕に戻り、サラのところに来て言った。「早く、上等の小麦粉を三セアほどこねて、パン菓子をこしらえなさい。」⁷ アブラハムは牛の群れのところへ走って行き、柔らかくておいしそうな子牛を選び、召し使いに渡し、急いで料理させた。⁸ アブラハムは、凝乳、乳、出来立ての子牛の料理などを運び、彼らの前に並べた。そして、彼らが木陰で食事をしている間、そばに立って給仕をした。⁹ 彼らはアブラハムに尋ねた。「あなたの妻のサラはどこにいますか。」「はい、天幕の中におります」とアブラハムが答えると、¹⁰ 彼らの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずここにまた来ますが、そのころには、あなたの妻のサラに男の子が生まれているでしょう。」

新約聖書 コロサイの信徒への手紙 1 章 15 節—28 節 (新共同訳)

¹⁵ 御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。¹⁶ 天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。¹⁷ 御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。¹⁸ また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。¹⁹ 神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、²⁰ その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

²¹ あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。²² しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。²³ ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

²⁴ 今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています。²⁵ 神は御言葉をあなたがたに余すところなく伝えるという務めをわたしにお与えになり、この務めのために、わたしは教会に仕える者となりました。²⁶ 世の初めから代々にわたって隠されていた、秘められた計画が、今や、神の聖なる者たちに明らかにされたのです。²⁷ この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。²⁸ このキリストを、わたしたちは宣べ伝えており、すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。

教会讃美歌 292 番「重荷をにないて」、298 番「心まよいゆくをやめて」、357 番「主なる神を たたえまつれ」。